

アライヘルメット社長の新井理夫は知る人ぞ知るバイク通、今でも休日ごとに一人で200キロは走り回る現役のバリバリです。ウデは確かと自慢するわりにはコケますが、転倒と事故は別と言うのが本人の言い分です。でも、無事故歴20年以上の記録を現在も更新中なのは事実だし、昔はレースまでやってたらしいから、そこそこのウデはあるでしょう。

Arai

その社長が4月の下旬、休日の朝、お気に入りのスポーツスターで郊外の田舎路を流し、右まわりコーナーに差しかけた時の事です。覺通しを確認しコーナーへ回り込んだところ、道路右側の小路から中年女性の運転する軽自動車が突然とび出し、大きくふくらみながら曲がって来たそうです。注意しながら出てくれば、どうって事無いのに。

Arai

その女性、バイクを正面に見てびっくりして止まったが、軽自動車は左端で道を塞いだまま、そして、バイクは倒してるから思うようにブレーキを使えない。あとはとっさの判断です。ブレーキでだましながらスピードを落とし、バイクはわざと倒して路端に落とし、衝突は回避したそうです。転倒の際、ヘルメットをバイクか何かで打ったけど身体に異常は無く、自慢のバイクも傷はついたが、乗って帰る事が出来る程度で済んだのは奇縁でた証、と自慢してました。

Arai

その際、当社の社長が被ってたのはプロテイン紺のギガ、写真のヘルメットです。右側の下端辺りにかなりの力で何かの角に当たったような傷があります。障害物が何だったにせよ、丈夫なフルフェイスだから社長の顔は助かりました。今、巷で流行りのハーフを被ってたら、打った辺りは無防備だから、自慢話じゃ済まなかったでしょう。数十針の切り傷

で済めばみつけもの、アゴを砕いても不思議じゃない事故です。ベテランが普通に走ってもこんな処を打つ事があるのだからハーフは怖いです。

Arai

最近、一昔前の型のバイクが流行のようで、ヘルメットも昔のハーフ型がよく売れる、と聞きます。アライに対しても、高橋国光さん達が二輪GPで活躍してた頃のようなハーフを復活してほしい、との要望があります。売れるものを作るのが商売だから、業績を考えるなら、出せば売れるハーフも出すべきかも知れません。しかし「自分が被らないようなヘルメットは売らない」というのがアライです。その社長が改めてまた、ヘルメットのどこが大切か身をもって体験してしまいました。お客様サイドから「ハーフ型を」との声はありますが、社長のOKは出ぬことでしょう。

これがハーフ型だったら...

